

「かわいい」「かっこいい」というジェンダーラベリングと 幼児の自己主張の強さが色の好みに与える影響 (中間報告)

同志社大学心理学部・日本学術振興会(PD) 金 山 英莉花

The effects of gendered labeling as “kawaii” and “kakkoii” and children’s assertiveness on their color preferences

Faculty of Psychology, Doshisha University /
Japan Society for the Promotion of Science (PD) KANAYAMA, Erika

要 約

幼児教育の現場において性別による固定概念を子どもに与えないことが重要とされている。そこで、本研究では子どもの色の好みの性差に着目する。色の好みはジェンダーラベリングの影響を受けている可能性が指摘されている。また、自分の意見や選好を伝えるのに重要となる自己主張が強い幼児は、ジェンダーラベリングの影響を受けにくいと考えられる。本研究では、日本の保育者がよく用いるジェンダーを示唆する言葉である「かわいい」「かっこいい」というジェンダーラベリングが色の好みに影響を与えるのか、またその効果は自己主張の強さによって異なるのかを検討する。

【キーワード】かわいい, かっこいい, 色の好み, ジェンダーラベリング, 自己主張

Abstract

In early childhood education settings, it is considered important not to instill genderbased stereotypes in children. Therefore, the present study focuses on sex differences in children’s color preferences. It has been suggested that color preferences may be influenced by gender labeling. Moreover, young children with strong assertiveness, which is important for expressing their own opinions and preferences, are thought to be less susceptible to the influence of gender labeling. This study examines whether gender labeling using the terms “kawaii” (“cute”) and “kakkoii” (“cool”), which are frequently used by Japanese childcare practitioners to imply gender, affects children’s color preferences and whether this effect varies depending on the strength of children’s assertiveness.

【Keywords】 kawaii, kakkoii, color preferences, gender labeling, assertiveness

問題と目的

近年、幼児教育の現場において性別による固定概念を子どもに与えないことが重要とされている。保育所保育指針解説、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説には「子ども（園児）の性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないようにすること（厚生労働省，2018，p288；内閣府他，2018，p310）。」と記載されている。また，社会的に期待される性役割は，子どもの自己表現や将来の選択肢を制限しやすく，自己肯定感の低下や精神的健康の阻害につながる（高橋，2009）。そのため，性役割に縛られない自己概念を持つことが幸福感につながる可能性がある指摘されている（Korlat et al., 2022）。以上のことから，性役割や性別による固定概念を子どもに植え付けないよう保育することは重要である。

性別による固定概念を与えない保育を考える上で，ジェンダーラベリングの影響を受けるとされる子どもの色の好みの性差を考える必要がある。例えば，Yeung et al. (2018)の研究では，中性的な色とされている黄色と緑色を用い，「黄色は女の子の色であり，緑色は男の子の色である」とラベリングをされた子どもは，ラベリングをされていない子どもよりも，自分の性別がラベリングされた方の色を好んだ。よって，ジェンダーラベリングは色の好みに性差を生み出す可能性がある。

日本では，ジェンダーラベリングとして「かわいい」「かっこいい」が使われることが多い。「かわいい」は日本特有の言葉であり，「幼児に対する愛情から派生して，意識主体にとって害がなく緊張を感じさせず，保護したいというポジティブな感情を喚起させる対象をさす形容詞である（入戸野，2013）」と定義される。「かわいい」が女性的な意味をもつことは，性別における「らしさ」を重視する日本の文化を反映したものであり（Asano，2014），日本の保育の観察研究では，保育者は「かわいい」を女児に対して，「かっこいい」を男児に対して多用している（Burdelski et al., 2010）。よって，「かわいい」「かっこいい」はジェンダーを示唆する言葉であると考えられる。以上のことから，本研究では日本語特有の言葉でもあり女性的な意味が示唆される「かわいい」と，「かわいい」に対して男性的な意味が示唆される「かっこいい」を用いる。

また，幼児の色の好みがジェンダーラベリングによって変化するかを検討するにあたって，幼児の自己主張に着目することも重要である。自己主張とは，「自分の意志，欲求をもち，これを外に向かって表し実現する」ことを指す（柏木，1988）。自己主張的（アサーティブ）トレーニングを行った子どもはステレオタイプにとらわれずに行動できることが明らかになっている（Agustin et al., 2025）。

また，自己主張が弱いと自分の意見や選好を伝えるのに困難を示すことから（Collins et al., 2000），自己主張が重要であると考えられる。

しかし，ジェンダーラベリングが幼児の色の好みに与える影響について，幼児の自己主張による違いを検討した研究は管見の限り存在しない。そこで本研究では幼児を対象に，ジェンダーラベリングによって幼児の好みが変化するのか，またその効果は自己主張の強さによって異なるのか検討する。仮説としては，①ジェンダーラベリングをした場合は，自己主張が強い幼児よりも弱い幼児の方が自分の性別にラベリングされた色を好むこと，②自己主張が弱い幼児においては，ジェンダーラベリン

グをしなかった場合よりもした場合の方が自分の性別にラベリングされた色を好むこと、③ジェンダーラベリングをしなかった場合は自己主張による差がないこと、④自己主張が強い幼児においてはジェンダーラベリングによる差がないことが挙げられる。

方 法

実験参加児

近畿地方の幼稚園もしくは保育園に研究協力を依頼し、研究協力の承諾を得られた園の年長クラスの幼児を対象とする。約 60 名を対象とする予定である。

色の好みの測定

材料 黄色と緑色の色カードを 1 組用意する。これはジェンダーラベリングの操作をする際に用いる。

また、Yeung et al. (2018) および 増田・中尾 (1981) を参考に、おもちゃの絵カード（風船、砂遊びセット、クレヨン、木琴、輪投げ等のジェンダーニュートラルなおもちゃ）を 12 枚用意する。おもちゃの絵カードは、黄色、緑色、および赤色、青色、茶色等の黄色と緑色以外の様々な色のものを用意する。黄色と緑色のカードに対する反応に過度な注意が向かないようにするため、その他の色で描かれたおもちゃの絵カードをダミー刺激として混在させる。

そして、印象評定を行うために、フェイススケールを用意する。「好き」「少し好き」「普通」の 3 つの顔を作成する。幼児に印象評定をさせる際はフェイススケールが頻繁に用いられている (e.g. Huckstadt & Shutts, 2014)。また先行研究より、嫌いな色はないと答える幼児が多数である（学研教育総合研究所, 2022）。そのため、浅利他 (2020) のポジティブな感情のみのスケールを参考にしてフェイススケールを作成する。

自己主張の測定

材料 鈴木 (2005) を参考に、仮想課題を用いて幼児の自己主張を測定する。仮想場面は紙芝居で提示する。紙芝居は、自分が遊んでいたおもちゃを友達が無断で持って行ったという内容である。紙芝居は 2 種類用意する。

手続き

実験は、女性の実験者が参加児 1 名ずつに対して個別に行う。

まず、色の好みの測定を行う。実験者は参加児の回答に影響を与えないよう黒色の服を着る。ラポール形成後、黄色と緑色の絵カードを示す。まず、参加児に黄色と緑色の好みをフェイススケールを用いて尋ねる。次に、Yeung et al. (2018) を参考に、実験群には「黄色はかわいい色です。緑色はかっこいい色です。」と教示する（色はカウンターバランスをとる）。統制群には何も教示しない。実験群

には操作チェックのため、どちらがかわいい（かっこいい）色かを尋ねる。

その後、様々な色のおもちゃの絵カードを1枚ずつ示し、フェイススケールを用いて印象を尋ねる。絵カードの提示順はカウンターバランスをとる。「普通」を0点、「少し好き」を1点、「好き」を2点とする。なお、黄色と緑色で描かれた絵カードのみ分析対象とし、それ以外の色の絵カードはダミー刺激のため分析対象としない。実験終了後、「最初に黄色（緑色）はかわいい、緑色（黄色）はかっこいいと言いましたが、そのように考える人もいるし、そうじゃないと考える人もいます。いろいろな考え方の人がいますね。」と教示する。

次に、自己主張の測定を行う。紙芝居を読み終えた後、参加児がどのような行動をとるかを尋ねる。「『返して』と言う」等の返答をした場合、自己主張を選択したとみなし1点とする。2つの課題の合計点を0～2点で採点する。

現在の進捗と今後の計画

現在は倫理審査の申請準備、および刺激の作成を行っている。2026年5月～9月頃、近畿地方の幼稚園、保育園において実験を実施する予定である。

引用文献

- Agustin, M., Djoeaeni, H., Gustiana, A. D., Puspita, R. D., & Pratama, Y. A. (2025). Cognitive counselling effectiveness: Assertive approach to deal with stereotype and prejudice in early childhood. *AL-ISHLAH: Jurnal Pendidikan*, 17 (1), 128-140.
<https://doi.org/10.35445/alishlah.v17i1.5913>
- Asano-Cavanagh, Y. (2014). Linguistic manifestation of gender reinforcement through the use of the Japanese term *kawaii*. *Gender and Language*, 8 (3), 341-359.
<https://doi.org/10.1558/genl.v8i3.341>
- 浅利 剛史・田畑 久江・山本 武志・今野 美紀 (2020). 採血を受けた幼児の「がんばった」概念の探索的研究—幼児の自己評価と大人による他者評価の関連— 札幌医科大学札幌保健科学雑誌, 9, 22-26.
<https://doi.org/10.15114/sjhs.9.22>
- Burdelski, M., & Mitsuhashi, K. (2010). “She thinks you’re *kawaii*”: Socializing affect, gender, and relationships in a Japanese preschool. *Language in Society*, 39 (1), 65-93.
<https://doi.org/10.1017/S0047404509990650>
- Collins, L. H., Powell, J. L., & Oliver, P. V. (2000). Those who hesitate lose: The relationship between assertiveness and response latency. *Perceptual and motor skills*, 90 (3), 931-943.
<https://doi.org/10.2466/pms.2000.90.3.931>
- 学研教育総合研究所 (2022). 幼児白書 Web 版 2022 年 9 月調査「幼児の日常生活・学習に関する調査」

4. 日常生活について 好きな色・嫌いな色 学研教育総合研究所 Retrieved January 12, 2026, from <https://www.gakken.jp/kyouikusuken/whitepaper/k202209/chapter4/05.html>
- Huckstadt, L. K., & Shutts, K. (2014). How young children evaluate people with and without disabilities. *Journal of Social Issues*, 70 (1), 99–114
<https://doi.org/10.1111/josi.12049>.
- 柏木 恵子 (1988) . 幼児期における「自己」の発達—行動の自己制御機能を中心に— 東京大学出版会
- Korlat, S., Holzer, J., Schultes, M. T., Buerger, S., Schober, B., Spiel, C., & Kollmayer, M. (2022). Benefits of psychological androgyny in adolescence: The role of gender role self-concept in school-related well-being. *Frontiers in Psychology*, 13, 856758.
<https://doi.org/10.3389/fpsyg.2022.856758>
- 厚生労働省 (編) (2018). 保育所保育指針解説 フレーベル館
- 増田 公男・中尾 忍 (1981). 幼児の遊び行動に及ぼす性差, 性役割選択及び性的ラベリングの効果 教育心理学研究, 29 (1), 75-79.
https://doi.org/10.5926/jjep1953.29.1_75
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (編) (2018). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
- 入戸野 宏 (2013). かわいさと幼さ—ベビースキーマをめぐる批判的考察— *Vision*, 25 (2), 100-104.
https://doi.org/10.24636/vision.25.2_100
- 鈴木 亜由美 (2005). 幼児の対人場面における自己調整機能の発達—実験課題と仮想課題を用いた自己抑制行動と自己主張行動の検討— 発達心理学研究, 16 (2), 193-202.
<https://doi.org/10.11201/jjdp.16.193>
- 高橋 道子 (2009). 子どもの自己像の形成とジェンダー 直井道子・村松泰子 (編) 学校教育の中のジェンダー (pp.19-35) 日本評論社
- Yeung, S. P., & Wong, W. I. (2018). Gender labels on gender-neutral colors: Do they affect children's color preferences and play performance? *Sex Roles*, 79 (5), 260-272.
<https://doi.org/10.1007/s11199-017-0875-3>